

## 【様式7】

## 会 議 録

会議の名称	第2回 かば桜学園学校運営協議会	
開催日時	令和7年7月10日(木) (開会) 13:00 (閉会) 14:30	
開催場所	北本市立西中学校 会議室	
出席者氏名(委員)	(校長も含め記載) 栗山浩(委員長) 高野敦史(石戸小PTA会長) 奥山美穂(委員) 高橋和美(副委員長) 熊谷香織(西中PTA会長) 齋藤ゆかり(委員) 原口穰(西中学校長) 佐藤貴広(石戸小学校長)	
欠席者氏名(委員)	なし	
傍聴者	0名	
議題	(1) 小中一貫事業について (2) 生徒指導上の課題について (3) 学校課題研究について	
協議等 要 旨	協議結果	意見の概要
	(1) 中1ギャップについて ・学校が変わると小1、中1ギャップはあるが、年齢を重ねると自分で対応できる力がついてくる。小学校から中学校への進学、学習や部活への不安があるようで、直接、親に相談できない年齢でもある。 ・西中38人から1学年500人以上の高校に進学したが、対応できている。	
	(2) 生徒指導上の課題について ・周りの大人の支援が大切であると思う。 ・石戸幼稚園、石戸小への進学でギャップはなく、周りに知っている人ばかりで安心していった。中学校も、人数が少ないが、よさもあるので、現在心配していない。 ・小さなコミュニティなので、互いに人柄をよく知っている。そのため、付き合い方がわかっている。	
	(3) 学校課題研究について ・集会の時に、話をしている人の方を向いて聞いている。また、人の目を見て話している。 ・研究授業をした。算数科の中で、児童が話	・研究もしていて子供たちが伸びたと感じることは何か。

	<p>している話し方や、よく聞く姿勢は、学年の発達段階としてふさわしく、小中一貫の成果であるといえる。</p> <p>・受け取る力、聴く力も大切であるため、一方的に伝えるのではなく、「伝え合う」ことが大切であり、その力を伸ばしていくことで、児童の生きる力を伸ばしていけると考えたからである。また、協働的な学びにおいて、伝え合うことが大切である。</p>	<p>・なぜ「伝え合う」ことを学校課題研究としたか。</p>
<p>配付資料</p>	<p>(1) 第2回小・中共通資料</p> <p>(2) 第2回資料（西中・石戸小）</p>	